

---

(参考資料)

# 施工業者の実態把握 調査結果

令和 8 年 2 月  
大阪市水道局

# 1 . 調査概要

- 目的：管路更新ペースを引き上げるには、水道工事の担い手である民間施工業者の体制の確保が重要になるため、その実態調査を実施
- 期間：令和7年7月～12月
- 手法：アンケート、ヒアリング
- 対象：
  - (1) 本市の水道工事の受注実績が多い施工業者 回答数 111事業者
  - (2) 本市の水道工事の受注実績がない又は少ない大手の施工業者（ゼネコン等） 回答数 39事業者
- 項目：
  - (1) 直営施工の状況、1日当たり施工量、施工能力の強化
  - (2) 開削工事の受注意欲、応札を希望する工事内容

## 2 . 調査結果

### 配水支管の開削工事

#### 施工業者の体制

- 直営施工の状況や1日当たり施工量、現場稼働の状況等から、現状の施工業者の体制において、約48km／年の施工能力を確認
- さらに、長期継続的な発注計画を公表し、既存業者の体制強化や新規事業者の参入を促すことで施工能力が一定程度向上し、約53km／年の更新ペースを確保できることを確認

#### 施工困難路線の進捗

- 狹小道路や繁華街、幹線道路等の施工困難路線については、施工への制約や地元調整が生じやすいため、1日当たりの施工量が低下
- 残存する鋳鉄管には施工困難路線が多く含まれるため、円滑な進捗の確保に向け、設計・施工方法の見直しによる施工効率性の向上が必要

### 施工難度の高い基幹管路や非開削工事等

#### 施工業者の専門性

- 施工難度が高く、専門性が発揮できる工事について、大手の施工業者の受注意欲を確認
- ペースアップに向けては、こうした専門性を取り込む方策が必要

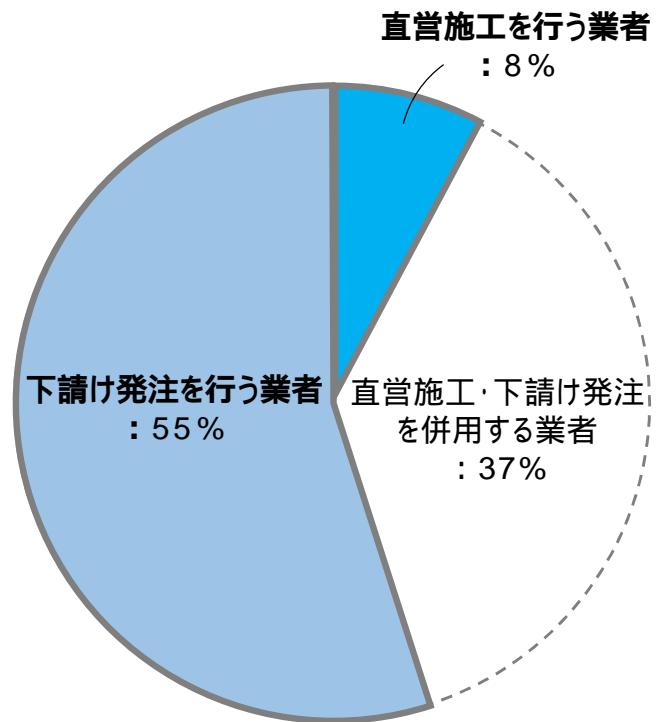
### 3. 主な調査内容

#### (1) 本市の水道工事の受注実績が多い施工業者

##### (直営施工の状況)

- 管工事について、直営施工を行っている業者は8%、直営施工・下請け発注を併用している業者は37%、下請け発注を行っている業者は55%

<直営施工・下請け発注の状況>



(補足)

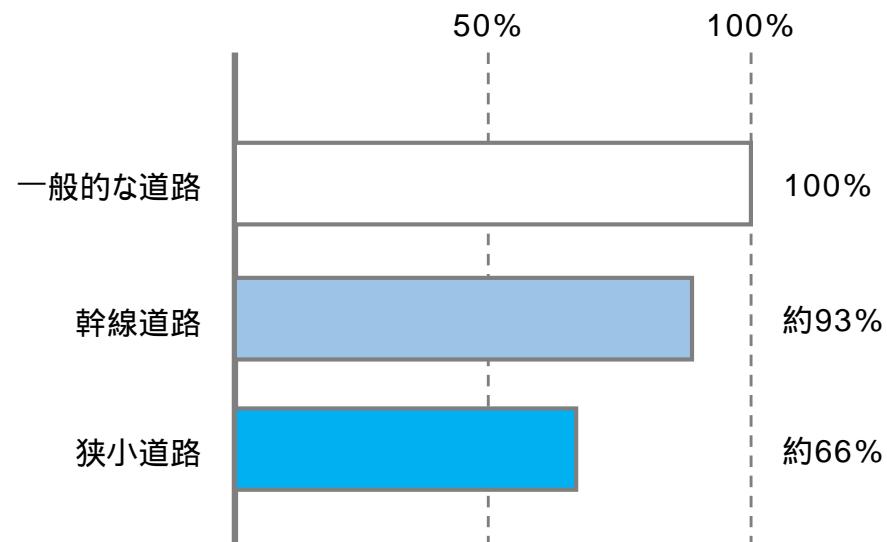
- 下請け発注を行う業者は、下請け業者の施工管理を実施

### 3. 主な調査内容

#### (1日当たりの施工量)

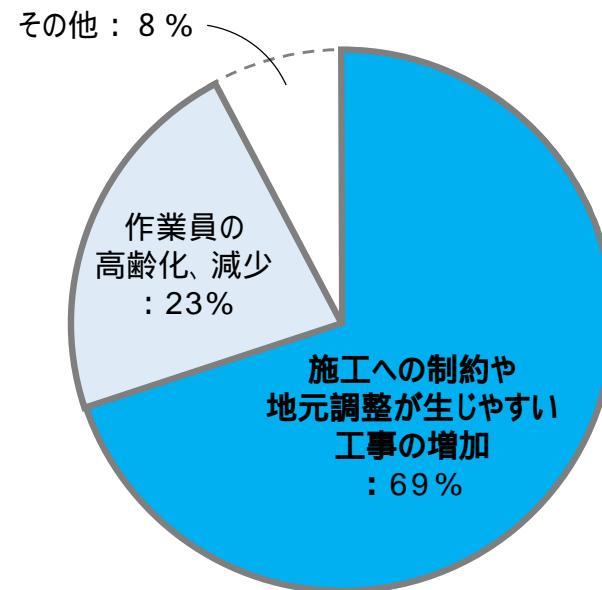
- 一般的な道路での1日当たり施工量を100%とした場合、幹線道路が約93%、狭小道路が約66%
- 施工困難路線（施工への制約、地元調整）の増加が、近年における1日当たり施工量の低下に繋がっていることを確認

<道路別の1日当たり施工量>



回答数45件

<以前と比べ1日当たり施工量が低下した理由>



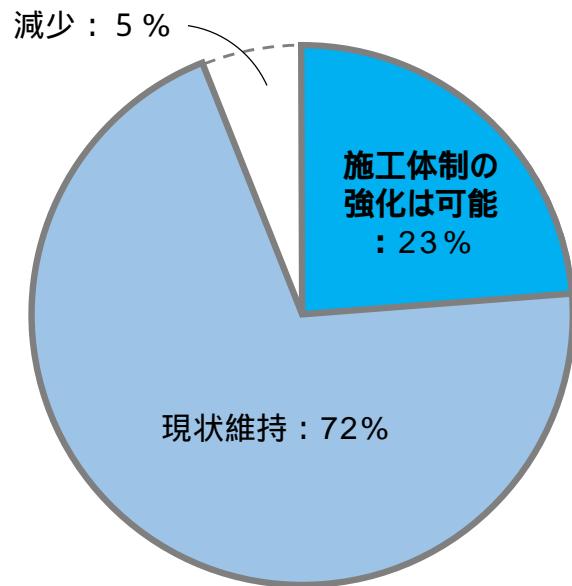
回答数26件

### 3. 主な調査内容

#### (施工体制の強化)

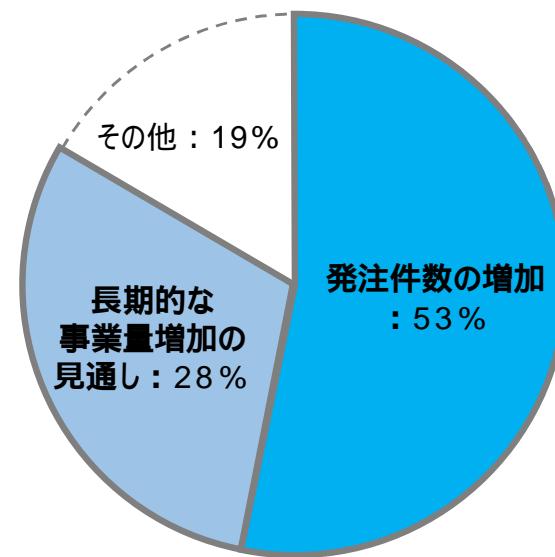
- 建設業界全体が厳しい雇用情勢にある中、施工体制については72%が現状維持とする一方、23%が施工体制の強化は可能と回答
- 施工体制の強化が可能と回答した業者については、長期かつ安定的な事業量を求めている

<施工体制強化の余地>



回答数111件

<施工体制強化に必要な施策>



回答数47件

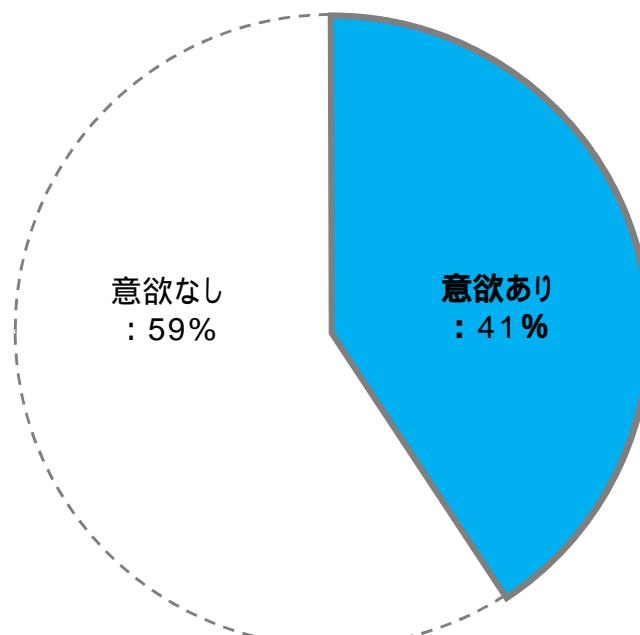
### 3 . 主な調査内容

#### ( 2 ) 本市の水道工事の受注実績がない又は少ない大手の施工業者（ゼネコン等）

##### （開削工事の受注意欲）

- 水道管の開削工事について、大手の施工業者の約4割が受注意欲ありと回答（新規参入の可能性）

<開削工事の受注意欲>



回答数39件

### 3 . 主な調査内容

#### (応札を希望する工事内容)

- 水道管の開削工事の受注意欲がない大手の施工業者については、非開削工事などの施工難度が高く、専門性を發揮できる工事の受注意欲が高い

<応札を希望する工事内容>

